

校内研究計画			研究主任
重点事項	確かな学力	教科等指導力の向上	

- 1 研究主題 分かる喜びを感じ、自ら学ぶ児童の育成（3年次）
 ～「福岡小授業スタイル」を活用した、児童の表現力を育てる授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標の具現化から

本校では、「自ら学び 心豊かに たくましく生きる子どもの育成」を教育目標に掲げ、「思いやりをもち、協力できる子ども（徳）」「自ら学び、考えを表現できる子ども（知）」「進んで体を鍛える子ども（体）」「粘り強く取り組む子ども」を目指し日々の教育活動を行っている。本主題は、算数科の学習への関心意欲を高め、「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業を通して、「自ら学び、考えを表現できる子ども（知）」を具現化しようとするものである。

(2) これまでの研究の成果と課題から

本校では令和元年度から「分かる喜びを感じ、自ら学ぶ児童の育成」の実現を目指し、算数科の授業改善に取り組んできた。「福岡小授業スタイル」を基に、一昨年度は、振り返りを大切にしたい授業づくりを実践し、昨年度は、目的を明確にした数学的活動を取り入れた授業づくりを実践してきた。2年間研究を推進してきた結果、以下の点が成果と今後の課題として確認された。

成果

- ① 「福岡小授業スタイル」による授業の定着化により、教師は適用問題、評価問題まで行い、児童の力を付けてきた。
- ② 教師による具体物や絵図の提示、児童に題意を捉えての絵図、線分図、数直線図などを描かせる活動を積み重ねたことにより、児童が問題をイメージ化することができ、自力解決力を高めることができた。
- ③ 児童に単元の見通しをもたせるための単元計画表や、1単位時間の見通しをもたせる見通しカードを提示することは、児童に単元や授業の見通しをもたせる上で大変有効であった。
- ④ 教室内の既習事項の掲示は、児童が学びを振り返ることができ、課題解決したり、本時の学びを振り返ったりするのに効果的であった。

課題

- ① 「福岡小授業スタイル」の適用問題、評価問題、振り返りの時間を15分間は確保したい。こうすることで、全員の児童が本時の課題の解決ができるようになり、できた喜びを感じさせることにつながると考える。
- ② 課題の自力解決時に、絵図、数直線、線分図を描いたり、立式したりすることへ戸惑いを見せる児童が少なくなかった。全校で共通した問題分析や自力解決方法等など、児童へ課題解決の道筋を示し、定着させていく必要がある。
- ③ 児童は図や式を使って考えを説明することが得意ではなかった。解決方法を自分の言葉で表現していくことは、数学的に物事を考える力を伸長し、定着させていくものと考え。そのために、自分の言葉で表現する機会を多く与えたい。

- ④ 学習集団の2極化が見られる。学力テストの評定1が50%を超えており、全員参加型の授業や個に応じた指導を行い、全員の学力向上を目指したい。

(3) 児童の実態から

本校の児童の多くは明るく素直で、学習活動や行事等の課題に対して一生懸命に取り組む。令和2年6月と12月に行った学力調査では、以下のことが考察される。

- ① 児童の日々の学習状況においては、担任による日々の授業改善に加え、朝のスキルタイムやスーパーノビールランド等の校内体制による成果が出てきており、12月の学力テストでは、6月と比べ、伸びが見られる学年が多い。
- ② しかし、6学年を除き、目標値を下回っており、特に「思考・判断・表現」に課題があることが分かった。また、学力テスト評定1の児童が50%を超えている学年が多く、学習集団の2極化が見られる。

このことから、全員が分かる授業、できた喜びを感じる授業、「思考・判断・表現」を伸ばしていくために、児童の表現力を向上させていく授業を展開していくことが求められている。

今年度は、これまで研究してきた「福岡小授業スタイル」での授業を定着させて確かな学力を身に付けさせ、児童に解決方法を表現することにより、児童の「思考・判断・表現」を伸ばさせ、児童が「分かる喜びを感じ、自ら学ぶ」ことができるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究主題・副題のとらえ方

次の3点を共通理解の上、研究を進める。

(1) 「分かる」とは

指導法の工夫を通して児童が以下のような状態になっていることと捉える。

- ① 導入時に既習事項等を基に「解けそうだ」と見通しをもって学習に取り組んでいる状態。
- ② 問題解決を通して、友達や教師の説明を聞き、解き方を理解した状態。
- ③ 問題解決や適用問題を行うことを通して、課題の解決の仕方を理解した状態。

(2) 「自ら学ぶ児童」の姿とは

本校の目標とする「自ら学ぶ児童」の姿を以下のように捉える。

- ① 学ぶことに「取り組んでみたい」「考えてみたい」「解いてみたい」「おもしろい」と興味・関心を持ち、課題を解決するために見通しをもって、学習に取り組むことができる児童。
- ② 課題に対する自分の考えを目的に応じて書き、友達に筋道を立てて説明できる児童。
- ③ 友達の考えを聞いて、共通点や相違点などに気付き、自分の考えを広げたり深めたりして、友達と一緒によりよい方法を見つけ出そう課題を解決しようとする児童。
- ④ 「やってみよう」「挑戦してみよう」という新たな問題や課題に意欲的に取組もうとしている状態。

(3) 「児童の表現力」とは…

- ① 本時の課題を、具体物、図、数直線、線分図、式などを用いて自力解決をすることができること。
- ② 自分の考えを必要に応じて図や式などを使って説明できること。
- ③ 友達や教科書、教師が提示した考えと自分の考えを比較し、質問や賛成・反対の意見を述

べられること。

(4) 「福岡小授業スタイル」とは・・・別紙参照

4 研究目標

算数科において、ねらいを明確にし、児童一人一人がねらいを達成できる授業づくり、一人一人の表現力を育てる授業づくりを工夫することで、分かる喜びを感じ、自ら学ぶ児童の育成を目指す。

5 目指す児童像

低学年部	中学年部	高学年部
・「福岡小授業スタイル」に慣れ、意欲的に取り組む児童。 ・問題解決の場面において、自分や友達が解決した方法を自分なりに話したり操作したりと、自分の考えをはっきりと表現することができる児童。	・単元や本時の学習内容を見通し、「福岡小授業スタイル」に意欲的に取り組むことができる児童。 ・問題解決の場面において、自分の考えを図や式などを用いて相手にはっきりと表現することができる児童。	・単元や本時の学習内容を見通し、「福岡小授業スタイル」に意欲的に取り組むことができる児童。 ・問題解決の場面において、友達の考えを理解し、図や式などを工夫して相手に分かりやすく表現することができる児童。

6 研究の視点

以下の2点を研究の視点と捉え、算数の授業実践に取り組んでいくことによって、「『分かる喜び』を感じ、自ら学ぶ児童」を育成することができると思う。

○視点1：児童が表現する力を付ける指導の工夫

【主な手立て】

- ・課題の解決方法を、ブロックやテープ図、線分図、式を使って表現させる。
- ・自分や友達、教科書の問題などの解決方法を、言葉で説明させる。
- ・図と式について、考えの根拠や、図や式の関係について説明させる。

○視点2：児童が主体的に学習に取り組むための工夫

【主な手立て】

- ・「福岡小授業スタイル」を意識した授業を行い、1時間の流れの見通しをもたせる。
- ・単元計画表（3年生以上）を活用し、単元の見通しをもたせる。
- ・適用問題、評価問題を通して、「分かった・できた」を感じさせる。
- ・「振り返り」を通して、自己有用感や次時への意欲付けにつなげる。

日々の教育活動で心掛けていくこと

学級づくり／人間関係づくり

- ① 学級のルールや学習の約束（福岡小授業スタイル）が定着しているか。
- ② 友達の良いところを見付け、認めることができるか。
- ③ 安心して話すことができる温かい雰囲気が作られているか。
- ④ 児童が、全員で課題に向き合い、取り組む雰囲気があるか。

書くスキル

- ① 自分の学びを振り返ることができるノートづくりが定着しているか。
- ② 大切だと思った言葉をメモすることができるか。

話す／聞くスキル

- ① 自分の考えをはっきり伝えることができるか。
- ② 教師や友達の話を受けて、話すことができるか（ハンドサインの活用）。
- ③ 聞いていることを態度で示すことができるか。
- ④ 図や資料を活用したり、例を示したりして、分かりやすく説明できるか。
- ⑤ 大事だと思ったことをメモすることができるか。

授業する上で押さえておきたいこと

- ① 児童が追求できる課題設定になっているか。
- ② 児童の実態に即した課題になっているか。
- ③ 考えを広げたり深めたりすることができる発問になっているか。
- ④ 一人一人ができたかを見取ることができるか。
- ⑤ 学習形態の工夫（ペア、トリオ、小集団、一斉等）があり、児童の話す機会を確保しているか。

学びの定着を図る学習環境の整備

- ① 毎日のスキルタイムの実施
- ② ノート指導の統一事項の整理
- ③ 学習形態の工夫（ペア、トリオ、小集団、一斉）
- ④ スーパーノビールランド（SNL）の実施

学びを支える家庭との連携

- ① 家庭学習の約束と、振り返りの書き方記載の下敷の配布
- ② 毎日音読、宿題プリント、漢字ノートの丸付けとチェック
- ③ 保護者への学習のアウトプット
- ④ 週末課題の実施（国語の条件作文・算数の文章問題）
- ⑤ 生活カード（規則正しい生活リズムづくり）

7 研究の内容と進め方

(1) 研究の基本方針

- ・児童の確かな学力の向上を意識して日々の授業実践を積み重ねていく。
- ・研究の視点に沿った具体的な手立ての有効性を、授業実践を通して検証していく。

(2) 研究の内容と方法

① 研究主題に関する理論的な研究

- ・文献や先行研究実践事例を調べ、多くの情報の中から研究につながるものを収集する。
- ・「福岡小授業スタイル」の見直しや、児童の表現力向上について研修する。

② 研究主題に関する児童の実態調査

- ・意識調査（5月・12月）、学力到達度診断（4月・12月）を行い、児童一人一人の変容を分析して、日々の授業に生かす。

③ 研究授業の実践

- ・一人1授業として授業を提供する。指導主事訪問等も含める。特別支援学級は、児童理解の場と位置付け、授業提供を行う。事後検討会は行わない。）
- ・学習指導案検討会は学年部で事前に行い、研究主任は授業者の提案を確認する。
- ・事前に学年部中心に模擬授業を行い、意見の交流を通して発問等の精度を上げる。
- ・学年部で授業記録（教師の発問や児童の反応などを文章化）を行い、検証に生かす。また、児童のノートや活動の様子を撮影し、検討会で活用する。
- ・事後検討会では、付箋紙を使ったKJ法により、視点に焦点を絞って話し合いを深める。

④ 研究の評価

- ・実態調査や評価テストなどで把握する。また、その結果を基に研究の評価を行う。

⑤ 研究の検証・まとめ

- ・児童の意識調査による検証（調査資料部）
年に2回（5月・12月）、児童に対して算数に対する意識調査を行い、比較・検討する。
- ・学力調査による検証
「学力テスト」及び「埼玉式学力テスト」の結果から、算数に関する学力の変容を検証する。
- ・研究授業による検証
指導主事訪問等も含め、一人1回の研究授業を行う。
学年部で教材研究、授業づくりを行い、模擬授業や事後検討会を通して成果と課題を共有しながら、授業改善を図る。

(3) 運営について

① 研究全体会（構成：全職員）

- ・研究推進協議、理論研究、授業研究などを行い、職員の共通理解を図り、研究の深まりを目指す場とする。

② 研究推進委員会（構成：教頭，教務，研究主任，学年部主任，各専門部主任）
 ・研究を円滑に推進するために，研究計画，方向，理論などについての内容検討や連絡・調整，研究全体会の企画・運営にあたる。2か月に一回程度開催する。

③ 授業研究部（低学年部，中学年部，高学年部，特別支援部）
 低学年部・・・1・2年担任・たんぼぼ担任・教務主任
 中学年部・・・3・4年担任・わかば担任・病院分校主任
 高学年部・・・5・6年担任・ふたば担任・ぐんぐん教室担任
 特別支援部……ふたば・わかば・たんぼぼ・ぐんぐん教室担任

④ 専門部（学年部ごとに分担して所属する。）

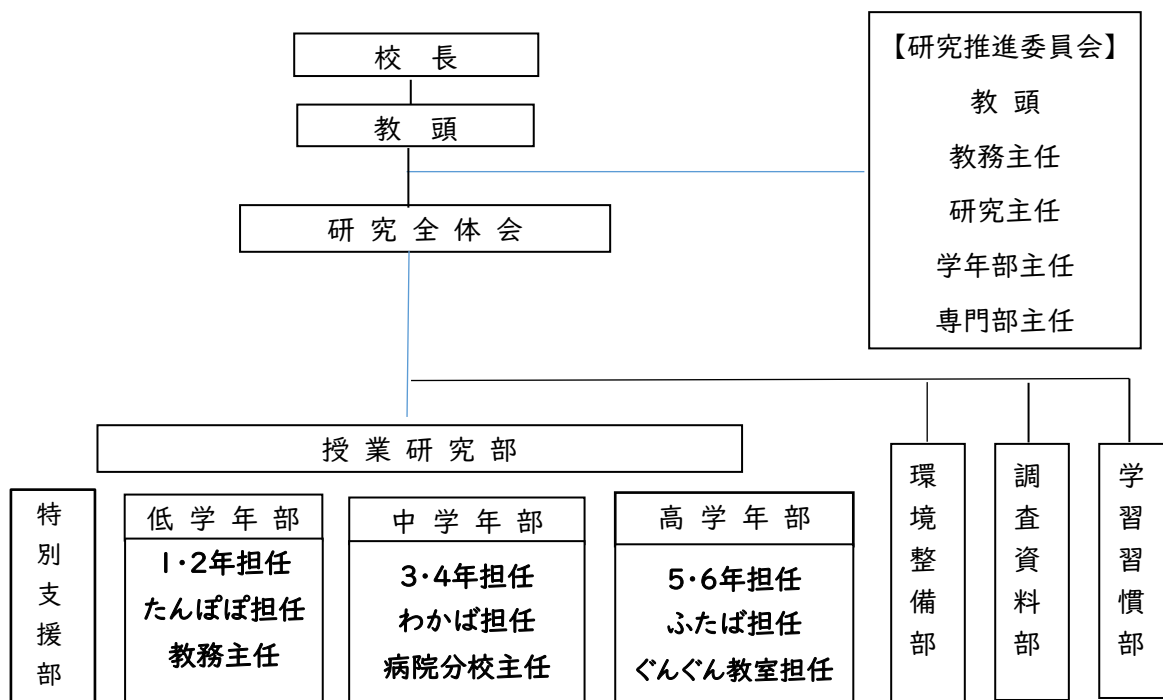
学習習慣部…

調査資料部…

環境整備部…

学習習慣部…スキルタイムの提案や「学習の約束」「ノートの使い方」など，学習習慣の推進を図る。
 調査資料部…児童の実態と変容を調査し，調査結果の集約と分析をする。学力検査の分析を行い，研究に役立てる。
 環境整備部…「既習事項」「数学的活動」に関する資料収集や教室掲示などの提案，校内掲示の整理を行う。

8 研究組織



9 研究計画

1年次(令和元年)…研究主題・副題の決定, 研究計画・研究目標・視点の決定

・視点に基づく算数科での授業実践の積み上げ

「分かる喜びを感じ, 自ら学ぶ児童の育成」

～算数科における児童の振り返りを大切にした授業づくり～

2年次(令和2年)…研究主題・副題の決定, 研究計画・研究目標・視点の検討や修正

・視点に基づく算数科での授業実践の充実

「分かる喜びを感じ, 自ら学ぶ児童の育成」

～算数科における目的を明確にした数学的活動を取り入れた授業づくりを通して～

3年次(令和3年)…研究主題・副題の決定, 研究計画・研究目標・視点の検討や修正, まとめ

・視点に基づく算数科での授業実践のまとめ

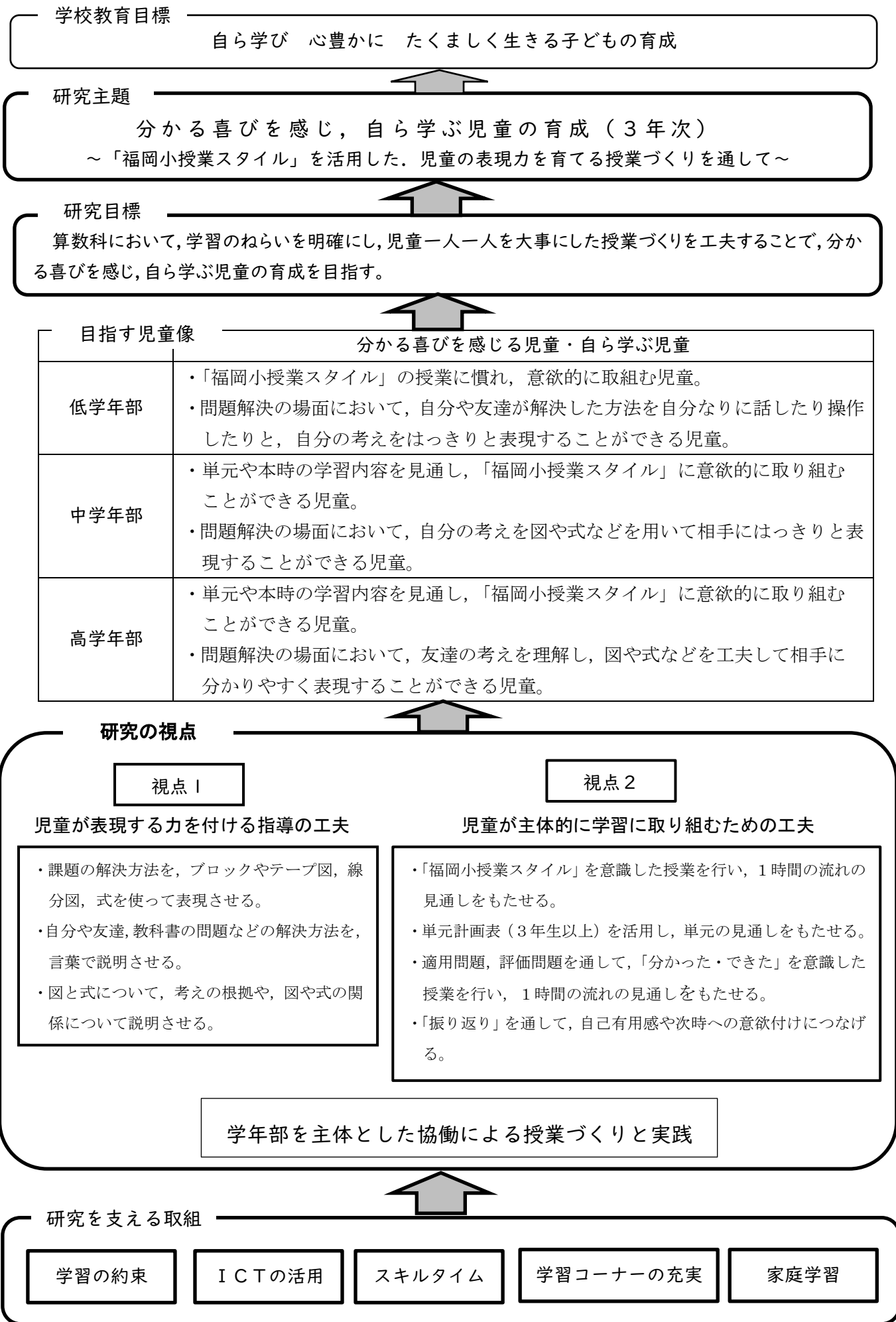
「分かる喜びを感じ, 自ら学ぶ児童の育成」

～「福岡小授業スタイル」を活用した, 児童の表現力を育てる授業づくりを通して～

10 年間研究計画

月	研究推進委員会 研究全体会 指導主事学校訪問 ()は日にち	学年(校内研究授業,提供授業,事後検討会) ()は日にち			
		低学年部	中学年部	高学年部	特別支援部
4	・研究推進委員会①(6) ・研究全体会①(12) ・専門部の年間計画と活動開始	・実態把握・指導計画作成・目指す児童像の検討・決定			
5	→指導主事学校訪問準備 ・研究推進委員会②(10) ・校内研究授業①(21) ・研究全体会②(31)	・指導主事学校訪問指導案検討	・指導主事学校訪問指導案検討	・指導主事学校訪問指導案検討	・指導主事学校訪問指導案検討
6	・指導案下書き(1) ・指導案清書(8) ・模擬授業(16・17) ・指導主事学校訪問(22) 2つの学年が授業提供	・学校訪問指導案検討・作成 ・授業検討	・学校訪問指導案検討・作成 ・授業検討	・学校訪問指導案検討・作成 ・授業検討	・学校訪問指導案検討・作成 ・授業検討
7	・専門部の反省と計画見直し				
8	・特別支援学級3学級合同 児童理解公開授業(26) ・研究推進委員会③(30)				・提供授業 わかば,ふたば,たんぽぽ ぐんぐん
9	・校内研究授業②(7)				
10	・研究推進委員会④(14)				
11	・校内研究授業③(19)				
12	・研究推進委員会⑤(17)	・研究収録の執筆	・研究収録の執筆	・研究収録の執筆	・研究収録の執筆
1	・研究推進委員会⑥(24) →学力テストの結果の分析,本校児童の傾向把握 ・今年度の研究のまとめ,研究の成果と課題 ・専門部の反省と今後の課題検討	・研究収録提出	・研究収録提出	・研究収録提出	・研究収録提出
2	・研究全体会③(10)→今年度のまとめ,次年度の方向性の検討				
3	・研究のまとめ →今年度の自作教材や使用教材の共有化	・今年度の自作教材(プリント,教材等)や使用教材を共有化(データとして保存し,来年度の学習に活用する)			

1 1 研究構想図



見えたぞ

福岡小の授業スタイル (白石市スタンダードにもつながる)

<p>⑥ 5分</p>	<p>問題提示</p> <p>↓</p> <p>印象的に、分かりやすく、教科書の利用、ICTの活用 具体物・半具体物の利用</p>	<ul style="list-style-type: none">・解決の見通し◎○△・答えのおよその数の見通し・既習事項の確認
<p>⑦</p>	<p>課題の設定 (短い言葉で) 青ライン</p> <p>↓</p> <p>問題分析 (問題文へ線引き, 絵図, 数直線図, 線分図)</p>	<ul style="list-style-type: none">* 既習事項・単元計画表の掲示* 「学習の足あと」の活用* ノート指導はここから
<p>⑧ 25分</p>	<p>自力解決タイム (5分で, 自由に前時までのノート等を利用して)</p> <p>↓</p> <p>⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p> <p>⑲ ⑳ 15分</p> <p>練習合い</p> <p>ペア・グループ プ・一斉で</p> <p>* 図や式などを用いた数学的な説明を行わせていく中で、意見を集約していきまとめていく</p> <p>例として</p> <ul style="list-style-type: none">・意図的指名の活用←他の児童による説明・教科書の解決例の利用←説明を考える・誤答の提案により正しい答えを推測させる・ホワイトボード等による児童の考えの明示・共通点・相違点の整理, 考えの関連付け <p>↓</p> <p>㉑ ⑳ ㉑ ㉒</p> <p>まとめ (課題の答えになるように, できるだけ短く)</p> <p>赤ライン</p>	<ul style="list-style-type: none">● 利用できるノート作り● 児童が自力解決するために必要なアイテムを身につけさせていく● 短い時間でも「見える・分かる・まとめ」へつなげていけるようにする<ul style="list-style-type: none">・ハンドサイン活用・ICTの活用・板書計画の必要性● 友達や先生の話のメモ, 自分の考えの見直しや書き加え
<p>㉒ 15分</p>	<p>㉓ ㉔</p> <p>適用問題</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none">* 1 問目は一斉に本時の学習を振り返りながら解決方法の児童説明と答え合わせまで行う* 2 問目以降は自力で (・グループリーダー丸付け・教え合い活動など)	<ul style="list-style-type: none">● 適用問題の吟味● 教え合い活動のタイミング
<p>㉕ 2分</p>	<p>㉖ ㉗</p> <p>評価問題 (ポス問題) (2分)</p> <p>↓</p> <p>* 教師がノートで評価できるように児童は自分で丸を付け, 誤りは赤で必ず訂正させる形で行う</p>	<ul style="list-style-type: none">● 授業のねらいを達成する評価問題と評価の仕方の工夫
<p>㉘</p>	<p>㉙ ㉚</p> <p>振り返り (観点に沿った)</p> <p>◎毎時間…自己評価+振り返り</p> <p>㉛…分かったこと ㉜…頑張ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none">● 振り返りの活かし方<ul style="list-style-type: none">・次時の導入に使用・花丸ノートへの掲示* 積み残しのあった児童には, 個別指導をする。